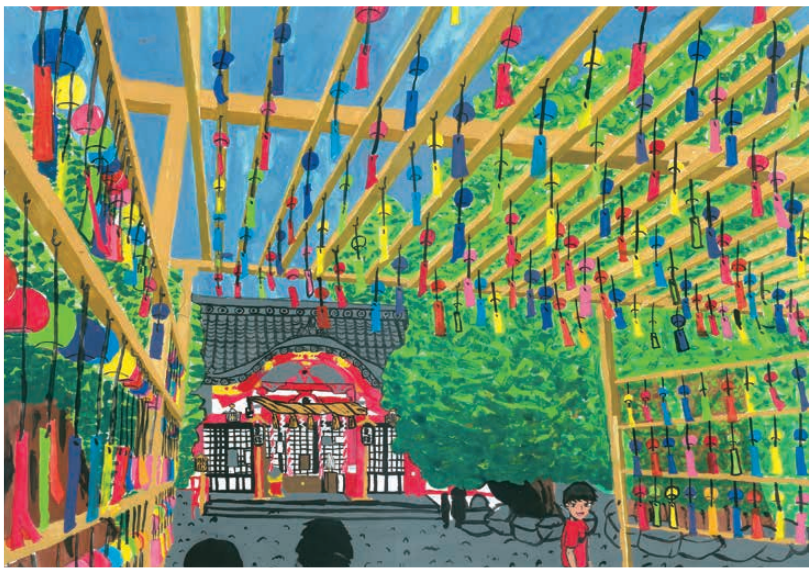
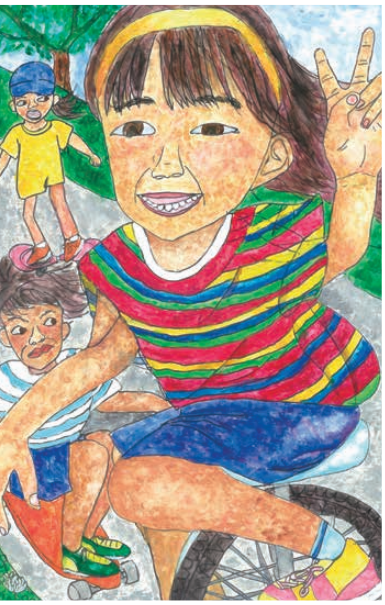
公益財団法人愛知教育文化振興会

教育と文化

No.127
令和3年11月





令和３年度「みかわ彩発見絵画コンクール（春・夏の部）」 最優秀作品受賞者

１年	豊田・衣丘小　伊藤えみり（上段左）	４年	豊橋・向山小　山口ちえり（下段）
２年	岡崎・井田小　足立　航基（中段右）	５年	安城・新田小　峯村日菜子（中段左）
３年	豊田・衣丘小　辰巳　　碧（中段中）	６年	刈谷・衣浦小　宝野　一真（上段右）

Contents

2　巻頭言
4　三河の文化を訪ねて
6　特集　令和４年度版 文振の刊行物 デジタル化への取り組み
8　刊行物の活用紹介
9　教室の窓辺
10　特色ある教育活動
11　令和３年度個人研究助成
15　研究成果論文提出者の紹介
16　文振だより

巻頭言

三河に育つ子どもたちのために

－タブレット端末を活かせる刊行物へ－

公益財団法人愛知教育文化振興会常務理事　伊藤　雅朗

リスニングができるQRコードをつけた刊行物を、多くの学校で採用していただき有り難うございます。この「英語の学習」は、愛知教育文化振興会（以下、文振）がタブレット端末を活用して学ぶ教材として初めて発刊したものです。

今、世界は、AI、IoT、ビッグデータなどに牽引されています。狩猟から農耕へ、工業から情報へ、それに続く第5の社会「Society5.0」に向けて大きな変革の中にあります。国連では、令和12年までの持続可能な開発目標（SDGs）を掲げ、世界共通の課題を、世界全体で解決するために17のゴールを設定しました。

日本政府は、「デジタル変革時代のICTグローバル戦略懇談会」において、デジタル化によるSDGsを達成することで「Society5.0」を実現したいという方針を出しました。そのSDGsの一つのゴールが、「質の高い教育をみんなに」です。子ども一人一台のタブレット端末などの配備は、それを促す「GIGAスクール構想」へとつながっています。

文振の役割

昨年から今年にかけての新型コロナウイルス感染拡大により、デジタル化へ拍車がかかりました。学校現場では、ICT環境整備が急激に進み、オンラインでの授業など、ICTを活用した授業のあり方への模索が始まっています。

文振にも、「自宅学習をする子どものために、刊行物を学校のHPにアップできないか」、「刊行物を利用した教材を学校からYouTubeで流せないか」などの問い合わせが届いています。

文振は予てより、「三河に育つ子どもたちのために」を第一義としてきました。そのために、学校現場や子どもの学びの姿を一番よく知っている三河小中学校の先生方の力をお借りして、刊行物の編集をしています。学習指導要領の趣旨を踏まえ、三河の自然や歴史・文化を生かした題材を取り入れ、子どもたちの基礎・基本の定着、学習習慣の確立、学習評価に役立つ内容にしてきました。

三河小中学校長会、三河教育研究会からは「子どもがタブレット端末に解答し、採点や集計、分析などをコンピュータ上で行うことができれば、先生の負担軽減につながる」、「三教研で刊行物への要望を吸い上げ、音声や資料、映像を機能的に組み合わせた刊行物を編集したい」などの意見もいただいています。

これらの要望を受け、文振は、学校に配備された一人一台のタブレット端末が活用できる、効果的で多様な学びに対応した刊行物を作り上げることが急務であると考えています。

刊行物の質を高めるには

文振では、毎年、現場でのモニター調査をお願いしてきました。これにより、現場の声をいち早く翌年の編集に反映できるようにと考えてきました。しかし、回数の限られた編集委員会、編集スケジュールの中でこれを検討していくことは、並大抵のことではありません。もっとこの効率を高めていきたいという願いをもっていました。

そこで、「文振だより」のコーナーにQRコードを掲載しました。ぜひ、編集委員会にデジタル化への要望をお寄せください。多くの現場の知恵を集めて編集委員会を充実させたいと考えています。

編集委員会については、年4～5回実施してきましたが、1時間30分ほどの時間の中で、できることは限られてしまいます。どの部会も運営には苦労をおかけしていました。

そこで、新設したICT部を中心に「ビジネスチャット」を導入することにしました。「ビジネスチャット」とは、ネットワークを介したリアルタイムのコミュニケーションを実現したツールです。委員会のメンバーが離れた場所にいても、同時に複数で情報交換ができます。このことにより、委員会で顔を合わせたときの話し合いが焦点化できます。万が一、会議が招集できなくなった状況でも、最低限の編集作業ができると考えています。

刊行物のデジタル化に向けて

令和4年度版の刊行物は、教師用と児童生徒用ともに従来通りの紙媒体を基本とします。デジタル化への足がかりとして、次の2点に取り組みます。

① QRコードの掲載

「ことばのきまり」などの刊行物は、QRコードを読み込むことによって、補充問題に挑戦できます。また、詳しい解説のページが参照できます。「かきぞめ手本」では、『運筆の動画』が見られます。

② 教師用刊行物のPDF化

「せいかつかノート」などの文振完全オリジナル刊行物から実施します。目次から該当ページにジャンプできます。また、大画面に映し出すことで、解答・解説が一斉にできます。

令和5年度版以降のデジタル化につきましては、各市町村の学校現場でのICTの活用状況やデジタル化への要望を把握しつつ検討していきます。

教師用刊行物を順次PDF化し、配付していくとともに、令和6年度の小学校大改訂、令和7年度の中学校大改訂の時期に合わせて、デジタル採点システムなど、ICTに対応した刊行物への進化を図ります。

子どもたちの成長を願って

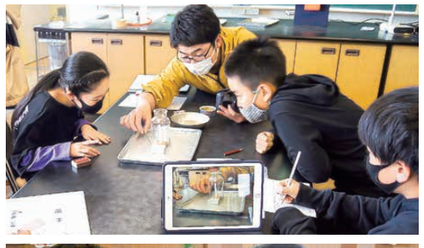
文字を書くことは、考えることの基盤です。紙に鉛筆で文字を書くことを通して知識を定着させ、理解を深めていく教育はこれからも大切です。その意味で文振の刊行物は役立つと考えています。基礎・基本の定着に焦点を当て、現場の教師が考え抜いてきたものだからです。

デジタル機器の活用は、その上に成立するものです。学びの多様化に対応するには有効だと考えます。

目標は、あくまで子どもたち個々の成長です。この子には何が必要だろう。そのためにどんな教材が役立つだろう。タブレット端末は万能ではありません。タブレット端末ではできない部分を見通しながら活用していくことが大切だと思います。

「検査結果のデータを見るばかりで、体に触れてもくれなかった」とは、病院帰りの友の話です。タブレット端末からのデータを画面で集中管理することばかりに熱心な教師が求められていると は思いません。子どものそばに行って、「頑張っているね」と、一言声をかけることも忘れない教師でありたいと願っています。そんな教師を応援する刊行物を目指しています。

これからも、何のためのデジタル化なのかを常に問い返しながら改訂を進めてまいります。



重要伝統的建造物群保存地区

～今なお息づく歴史と町並み～

二大祭りと観光のまち「足助」

豊田市立童子山小学校長　野田　靖

足助の由来と塩の道

足助の地名の由来は定かではない。源頼朝が伊豆で兵を挙げた頃、御家人として仕えていた浦野氏が、1177年に足助壮官としてこの地に来往し、足助氏と称するようになったのが始まりとされている。元弘元年（1331）、後醍醐天皇による討幕計画「元弘の変」で、京都の笠置山に逃れた天皇に、最初に馳せ参じたのが、足助氏七代目の足助次郎重範である。このいきさつは、「太平記」にも記載されている。

足助は読んで字のごとく「足」を「助」けるところ。中馬街道（塩の道）の中継地点として古くから栄えてきた商家町である。「中馬」の語源は、信州の言葉で「中継馬」がなまったと言われている。中馬街道は、信州飯田を出発点として、根羽で二つに分かれる。一つは足助を経て名古屋に至る飯田街道と足助の追分から岡崎へ至る足助街道である。もう一つは、根羽から新城を経て豊橋に至る伊奈街道である。

中馬街道で運搬された物資は、煙草、木地、柿、紙、塩、茶、綿など。最も重要な荷物は塩だった。足助に運び込まれる塩は、目方も品質もまちまちであったため、1俵を7貫目（約26キロ）に詰め直した。これを「足助直し」と呼び、飯田では塩のことを「足助塩」と言った。

足助の町並みは、平成23年（2011）に、愛知県で初めて国の重要伝統的建造物群保存地区（通称・重伝建）に選定された。歴史ある家屋と自然が融合した美しい景観は、未来へと受け継がれていくことだろう。

足助の二大祭り

（1）春祭り

春祭りは、前述した足助次郎重範公を称える足助神社の祭礼である。かつては、重範公の命日にちなんで5月3日に行われていたが、近年は、桜が美しい4月の第2土曜、日曜に執り行われている。

若連の梶さばきで運行する花車

足助の中心部にある7つの町（親王町、田町、本町、新町、西町、宮町、松栄町）の花車が町内を曳き回される。どの町の花車も、桜、藤などで美しく飾られ、小学女児から女子大学生が囃子方の笛に合わせて太鼓を叩き、歌を歌う。また、若連と呼ばれる20代中心の男衆が花車の梶を操り、足助の町並みを練り歩く。春祭りは、華やかな女性の祭りとして親しまれている。

（2）秋祭り

秋祭りは、10月に行われる足助八幡宮の例祭である。足助八幡宮の本殿は国の重要文化財に指定されている。この祭りは、足助八幡宮が古くから地域の人々の篤い崇敬を集めていた伝統を今に伝えるものだ。田町、本町、新町、西町の4台の山車は「足助型」と言われ、豊田市有形民俗文化財に指定されている。若衆は山車の中段の出役棚で、囃子に合わせて威勢のよいかけ声を出しながら踊る。

川沿いに並ぶ石垣造りの民家

祭りが今の形になったのは、江戸時代後期頃であると思われる。かつては5日間かけて行われていたが、現在は2日間となり、土曜日を試楽祭、日曜日を本楽祭と呼んでいる。

町内の曳き回しに加えて、試楽祭では神輿渡御が、本楽祭では山車の宮入り、囃子、火縄銃、棒の手の奉納なども行われる。夕刻には、4台の山車が境内を一周する「曳き回し」のあと「梵天投げ」が行われる。山車から長く伸びた竹竿の先端を飾る白色の「梵天」を各町の若い衆代表である年行事が「祝詞」をあげて本殿の前で投げ、祭りは最高潮を迎える。「梵天」は、家内安全等のお守りとして、地元民や観光客も欲しがり、奪い合いになるほどである。その後、たくさんの提灯に火を灯し、帰り車として各町へ帰っていく。勇壮さと幻想的な光景は、観者に感動を与えるほどだ。

西町の町内曳き回し

提灯に火を灯した帰り車

香嵐渓のライトアップ

足助の秋祭りは、平成6年に京都で行われた「平安建都1200年全国祇園祭山笠巡行」に招待され、京都の街並みを曳き回し、知名度をあげた。また、平成16年には、愛知万博の市町村フェスティバル「山車百輌総揃え」にも参加している。

足助の観光

足助は豊田市の観光地として四季を通じ多くの観光客で賑わっている。

春（3月の中旬頃）には、香嵐渓の飯盛山の斜面にカタクリの花が群生する。カタクリの花は、スプリングエフェメラル（春の妖精）とも言われ、可憐な姿に人気がある。

夏は平成14年から「たんころりん」が町並みを彩る。たんころりんとは、竹かごと和紙で作った円筒形の行灯のことである。8月上旬からの約2週間、日没後の町並みを火灯りが照らし、夏夜の情緒を演出する。

秋の香嵐渓は全国屈指の紅葉の名所だ。見頃は11月の下旬だが、昭和63年に始まった263基のナトリウム灯によるライトアップには、11月初旬から多くの観光客が訪れる。

2月には、平成11年から「中馬のおひなさん」のイベントが続く。足助の人々が、玄関や店内に思い出の雛を華やかに飾り、道行く人に町並み散策を楽しんでもらおうと始まった。

ここ1年半は、新型コロナウイルス感染症の影響により、足助祭りや各種イベントの縮小や中止を余儀なくされている。早く穏やかな日常となり、誰もが安心して楽しめる観光地・足助に戻ることを切に願うばかりだ。

中馬のおひなさん in 足助

風情漂う「たんころりん」の夕涼み

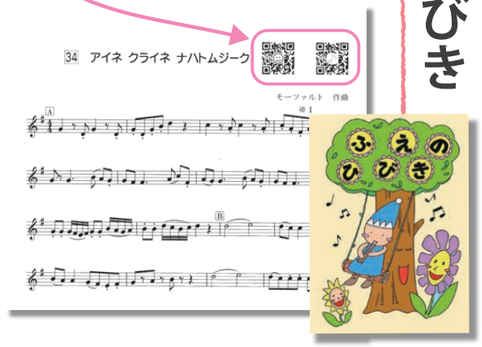
＜資料・写真提供：豊田市足助観光協会＞
〒444-2424　豊田市足助町宮平34-1
☎：0565-62-1272

【参考文献】「足助まつりマップ」「ようこそ足助へ」「足助・地域文化創造の五〇年」

令和4年度版 文振の刊行物
デジタル化への取り組み

自宅でも伴奏・範奏を聴くことができる ふえのひびき

もっとリコーダーに親しむために
～QRコード掲載、教師用PDF版の提供～



教師用CDとして学校に配付した音声データ（ピアノ伴奏、リコーダー演奏）のQRコード※を各曲のページに載せることで、タブレット端末やスマホから音声を聴けるようにしました。学校だけでなく、家庭でも存分に練習ができます。

現在、教師用（指導書）PDF版※の制作を進めています。目次から各ページにジャンプできるようにもなります。紙の冊子のように劣化の心配はないので、4年間安心して使えます。

（※JASRAC管理楽曲は除きます。）

タブレット端末で学びを広げる 小学校版 ことばのきまり

POINT 1 QRコードを紙面に掲載
外部ホームページで補充学習

＼学校・家庭で／

<参考>
文化庁「敬語おもしろ相談室」

POINT 2 教師用PDF版の追加

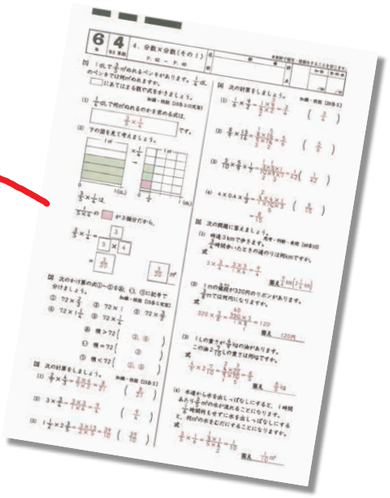
目次ページへの
リンクアイコンを設置

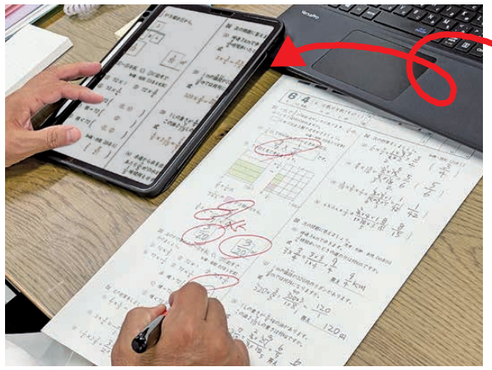
小学校版「ことばのきまり」では、児童用の冊子にQRコードによる外部リンク情報を掲載することと、教師用のPDF版の制作を進めています。

児童は、配付されたタブレット端末を活用して、冊子のQRコードから補充学習のための外部の学習用コンテンツを利用できるようになります。授業だけでなく、効率的に家庭学習を進めることが可能となります。

教師用PDF版は、目次から各ページにリンクできるよう利便性を図ります。教材配信システムを使った児童への丁寧な解説も可能となります。

タブレット端末の活用が広がる 教師用PDF版付 算数の学習





「算数の学習」は、デジタル化の一歩として、解答の入った教師用プリントをPDF版でも提供する予定です。目次から目的のプリントページにジャンプできるよう準備を進めています。

PDF化により様々なタブレット端末の活用が考えられます。答案を採点する時だけでなく、モニターに拡大して映し児童への説明をする時に活用できます。さらに、タブレット端末の中に電子データを全て入れておけるので、いつでも教材研究や授業準備に広く活用できます。

「とめ」「はね」「はらい」を映像化 かきぞめ手本

- 評価表のQRコードから、書家による3学年（小3・小6・中3）の手本動画を視聴できます（令和3年度版）。
- 「音声」と「字幕」で、書き方のポイントを示します。
- タブレット端末等を使って、「とめ・はね・はらい」など、実際の動きを確認しながら学習を進めることができます。

「かきぞめ手本」編集委員会では、子どもたちが学習指導要領「書写」の指導内容を身に付けることをめざし、全学年で評価表を作成しています。令和3年度より、教師の指導や子どもの学習にさらに役立てるために、次の2つの視点で改良を加えました。

①「練習上の注意」をより具体的な言葉で書く。
②書き方の留意点がわかる手本動画を配信する。

なお、②については、来年度以降、他学年にも拡大していきます。

「英語演習」を活用した授業

学びを自らマネジメントする

新城市立新城中学校教諭　鈴木　友絵

本校では、「自ら学び、共に学び、豊かに学ぶ生徒の育成」を目指して実践を重ねている。生徒が自ら課題を見つけ、解決に向けて学習を調整する力、見通しをもって粘り強く課題に取り組む力を育む実践である。

英語科では、CAN-DOリストでの振り返りと、その振り返りを活かすSelf-Studyの2つに取り組んでいる。CAN-DOリストには、授業の目標が書いてあり、4段階で自己評価ができるようになっている。自己の「できたこと・できなかったこと」が分かり、課題を見つけ、その課題をSelf-Studyで解決できるようになることを期待している。

「英語演習」について

今年度は、新学習指導要領の施行によって、授業で取り扱う文法や単語量が増加した。教科書も昨年度までのものと見比べると難易度が上がったが、英語でのコミュニケーションの土台となる語彙や文法はしっかりと身に付けさせたいと思い、「英語演習」を活用している。

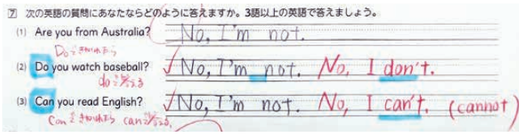
「英語演習」には、教科書の本文に出ているような基礎・基本的な問題、それを活用する応用問題がある。長文読解の問題も、教科書の本文と同じトピックで構成されているものが多い。単元が終わった後に生徒が授業を振り返りながら取り組むのに、適切な教材である。さらに今年度から、解答が問題用紙と同じ大きさで赤刷りになった。1問ごとに解説が書いてあったり、リスニング問題はQRコードがついたりしており、授業や生徒がSelf-Studyを行うのに使いやすくなった。

「英語演習」の活用1

本校では、基礎・基本の定着を目指して、家庭学習において2つの方法で「英語演習」を活用している。

1つ目は、「英語演習」の問題を、定期テストの公開問題にしていることである。単元終了後、CAN-DOリストで振り返りをさせる。

その後、「英語演習」を配付し、定期テストの公開問題に「英語演習」の問題と全く同じ問題を数問出題することを伝える。生徒は、授業のCAN-DOリストと合わせ、苦手なところを中心に、繰り返し学習して身に付けようとする。基本問題は教科書とリンクしている問題もあり、英語が苦手だと感じている生徒も、教科書や授業用ノートを見て確認しながら取り組むことができる。生徒の活用の仕方を見ると、①繰り返し解くために書き込む、③自分で仮テストをするといった方法で活用している生徒が多い。自分の力を高めるために、「英語演習」をどのように使って勉強していけばよいかを生徒自身が考え、自分に合った方法を模索しながら取り組んでいる。



「英語演習」の活用2

2つ目は、リスニング問題についているQRコードの活用である。授業で英語演習のリスニング問題を行い、解説を聞いた後、Self-Studyで、QRコードを読み取り、もう一度授業の確認をすることができる。記述問題を繰り返して解くことと同じように、リスニング問題も繰り返し取り組むことができる。普段のSelf-Studyでは、「聞く」学習のためにYouTubeでリスニング問題を調べたり、好きな洋楽を聞いたりする生徒が多いが、学校でリスニングを行った日のSelf-Studyでは、QRコードを読み取り、もう一度同じ問題に挑戦したり、聞いたものを書いたり、それを和訳したりする方法で学習に取り組む生徒も多い。

学習指導要領が改訂され、教科書が変わり、学ぶことが大幅に増えたが、それでも、生徒が英語を使うことに楽しさを感じられるように、単語や文法などの基本的な部分はしっかりとおさえていきたい。

生徒たちが、英語でのコミュニケーションの材料となる知識を増やし、土台を固められるように、今後も「英語演習」を有効に活用していきたい。

教室の窓辺

未来を切り拓く力
～動き出す子どもたち～

田原市立六連小学校 教諭　越賀　浩之

将来、よりよい社会を築くために、自ら行動につなげられる人になってほしい。そんな願いを抱いて、4年生の社会科「地震からくらしを守る」の単元がスタートしました。

「地震はいつ来るかわからない。何をすればいいのかな」単元スタート前の地震に対する子どもたちの意識です。すかさず、南海トラフ地震の被害シミュレーション動画を視聴しました。見終わると「もしこうなったら、だれか助けてくれるのか」というつぶやきがぽつり。そこで「みんなを守るために、だれがどんなことをしているのだろう」と学習問題を設定し、追究がスタートしました。

まずは「協力や連携」「人々の思いや願い」など、追究の視点をみんなで考えました。「校長先生が市役所の人たちと避難所について連絡を取り合っているみたい」「防災対策課の方が、地元六連の防災対策を知ることも大切だよって言っていたよ」など、追究の視点を考え、子どもたちの思考の流れを大切にしながら見学や調べ学習を行うことで、学習にのめりこんでいく子どもたちの姿を引き出すことができました。追究が進んできたところで、それぞれの意見を出し合う場を設定しました。学校や市役所、自主防災会や消防団の方たちから学んだことを積極的に伝え合うことで、子どもたちは次第に、各関係機関が連携し合って自分たちの安全を守ってくれていることに気付き始めます。

「では、南海トラフ地震からくらしを守るために自分たちは何ができるのか」との問いに子どもの思考は揺さぶられ、「日ごろから防災グッズを家族と確認しておかないと」「避難場所も確認しておけるね」「避難所では、何かを運ぶときに私たちも手伝えるよ」など、地域の防災に関わる人々からの願いや思いをもとに意見が次々と出てきました。そして、「みんなにも防災のことを知ってもらいたい」という思いをもとに一人一人が「防災マニフェスト」を作成しました。全校集会で自分が地震に対してどんな行動をとるのかを紹介する中で、「六連小のみんなも防災に備えてほしいと思いました。また、地域にも伝えて六連を防災に強い地域にしたいと思います」と振り返っていました。

地域の方々の考え方を追究する場を十分に保障し、友達と話し合って多様な意見に触れることで、子どもたちは学びを自分事として捉えました。そして、学んだことを、よりよい社会の創造のために生かそうと動き出す瞬間を見ることができました。近い未来、六連の子どもたちがきっと、よりよい社会を築くために行動していると信じています。

「防災マニフェスト」を紹介する子ども

本校は、「未来を切り拓く力・態度の育成」を研究テーマとして、生活科・社会科・生活単元学習に絞って教育研究に取り組んで参りました。その中で、越賀教諭は研究の大黒柱として3年間授業実践をリードしてきました。

- ふるさと田原を舞台に、校区や市の人々とかかわりながら追究する学習
- 子どもが自ら働かせる「見方・考え方」を明確にした授業
- 問題意識をもって、根拠をもとに解決に迫り、今後の生活を考えていく問題解決学習

これらの視点をもとに研究を進めて実践して参りました。今後は、他教科についても、子どもたちが働かせる「見方・考え方」とは何かを明らかにして支援を講じ、未来を切り拓く力・態度を育むとともに、授業力向上を目ざしていきたいと考えています。

（校長　小笠原　真）

特色ある教育活動
―「郡市教育・研究助成」を生かした取り組み紹介―

校内フリースクールの今

岡崎市長期欠席対策部会
岡崎市立矢作中学校長　山内　貴弘

岡崎市が昨年度開設した校内フリースクールは、不登校生徒をはじめとして学校生活に困り感のある生徒の学びの場、居場所となっています。社会で生きる力を身に付け、義務教育を修了する過程・環境となることをめざしています。

これまで岡崎市内の全中学校には不登校傾向の生徒を通常学級に復帰させることを目指した校内適応指導教室が、また、校外の適応指導教室として「ハートピア」がありました。これらの適応指導教室は、教室復帰を最終目的としていたことから、個に応じた指導・支援に限界や無理が少なからずありました。そこで、校内フリースクールでは最終的な自立と定め、新しい不登校支援の取組として位置付けています。昨年度は市内中学校3校に校内フリースクールが開設され、合わせて40名ほどの生徒が在籍しました。新学級の名は、フリースクールの頭文字を取った「F組」、ここも1つの学級であるという意味が込められています。

F組の日々　～自己肯定感を高める活動～

F組では、生活のリズムを整えたり、コミュニケーション能力を高めたりする活動を重視しています。また、F組が学校内にあることで、特別教室を利用する学習環境が整っており、体を動かしたり、絵を描いたりする活動を多く取り入れています。さらに、甲山中学校では、教室で仲間と学習することに抵抗感のある生徒のために、タブレット端末を使って学級内での授業を配信し、F組で学ぶライブ授業も行っています。こうして工夫された様々な活動も、生徒自身の「やってみたい」という気持ちを重視して進めるようにしています。

F組で実現する連携　～チーム学校～

福岡中学校のF組教室は、生徒用昇降口と離れた玄関奥の和室を転用し、在籍生徒は、気軽に教室に入ることができるよう工夫されています。担任には信頼の厚いベテラン教員を配置し、新たに配置されたフリースクール支援員を中心に、運営されています。午前中は、個別の学習を進める機会を多くして、午後は、体を動かしたり、ゲームをしたりする活動を行いますが、担任はその内容や構成を企画するコーディネーターの役目を担っています。

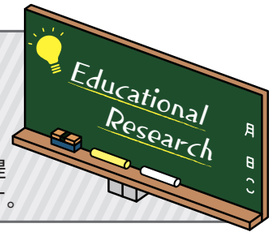
また、フリースクール支援員は、生徒と共に活動するファシリテーターとして、個々の生徒の短期目標や長期目標を定めていく役目を果たしています。さらに、在籍する通常学級の担任や、養護教諭、時にはスクールカウンセラーと協働的に支援にあたることで、チーム学校として取り組んでいます。

F組の存在　～未然防止と支援のあり方～

F組は不登校の未然防止にも高い機能を発揮しています。矢作中学校では、登校を渋り始めた生徒やコロナ禍の学校休業後、学校生活に不安を持った生徒の「心の保健室」として全校生徒や保護者に周知され、F組の存在価値が高まっています。

また、不登校の定義が欠席日数を基本としていることから、個々の生徒の状況や困り感に寄り添えていないのではという課題が浮かび上がりました。大切なのは、「今、支援を必要としている生徒」に対して、学校体制で向き合うことです。岡崎市では本年度から不登校児童生徒と呼ばずに長期欠席児童生徒として、居場所づくりを進めています。

令和3年度　個人研究助成



本法人では、先生方の研究を支援しています。本年度は、１年次研究、２年次研究、３年次研究を以下の先生方に助成しました。３年次研究を終えられて、研究成果論文を提出された先生方を対象に、最終審査会を行い、来年２月に優秀論文の表彰式を開催します。

〈１年次〉(200名)

研究領域	郡　市	学校名	氏　　名
国語	岡崎	梅園小	岡田　優希
	岡崎	梅園小	山田　　卓
	刈谷	亀城小	宮地　杏奈
	豊田	童子山小	古市　佳規
	豊田	梅坪小	江波　時生
	豊田	梅坪小	古澤綾加莉
	豊田	敷島小	土谷　和樹
	安城	安城東部小	近藤　諄明
	安城	錦町小	大須賀礼美
	西尾	花ノ木小	関谷　　悠
	西尾	西野町小	尾関　真帆
	西尾	室場小	安部　那菓
	西尾	一色南部小	岡村　　俊
	西尾	横須賀小	土谷　茉帆
	西尾	幡豆小	竹本　朱里
	知立	猿渡小	山田　啓介
	幸田	中央小	太田　寛士
	豊橋	鷹丘小	追分　博菜
	豊橋	栄小	尾崎　浩志
	豊川	国府小	武藤　理奈
	蒲郡	蒲郡東部小	柴田　春菜
	蒲郡	塩津小	浅井　郁恵
	新城	鳳来中部小	鈴木　康太
	田原	野田小	長谷川花奈
	岡崎	甲山中	鈴木　慶輝
	岡崎	城北中	市川　涼葉
	豊田	豊南中	相坂　　瞳
	豊田	高岡中	坂元　友佳
	豊田	竜神中	加藤　　諒
	西尾	吉良中	神谷　京花
	田原	赤羽根中	小川　達也
社会	岡崎	常磐南小	鈴木　康平
	岡崎	大樹寺小	星野　智史
	碧南	棚尾小	山中　祥雅
	刈谷	小垣江小	谷村　公基
	西尾	横須賀小	鶴田　清也
	幸田	坂崎小	三井　大輝
	幸田	深溝小	北　奈帆子
	豊橋	磯辺小	瀬野尾大智
	豊橋	栄小	古川　　由
	豊橋	前芝小	鈴木　喜仁

研究領域	郡　市	学校名	氏　　名
社会	豊川	金屋小	村田　咲奈
	蒲郡	蒲郡東部小	竹田　　亘
	新城	千郷小	新川　裕人
	田原	衣笠小	岡田　泰輔
	田原	伊良湖岬小	津田　将吾
	岡崎	甲山中	原田　洋輝
	岡崎	城北中	加藤光一郎
	刈谷	刈谷南中	角皆　直樹
	刈谷	朝日中	坂田　樹哉
	豊田	豊南中	尾関　美咲
	豊田	豊南中	西澤　朋気
	安城	安祥中	瀬戸　宏樹
	幸田	幸田中	大須賀　学
	豊川	音羽中	浅見　莉穂
	蒲郡	蒲郡中	井浪かなえ
算数	岡崎	常磐南小	佐藤　昌範
	岡崎	城南小	濱中　利矩
	豊田	梅坪小	軸丸　倫行
	安城	安城北部小	稲葉健太郎
	安城	志貴小	佐藤　大輝
	安城	桜井小	吉本　未希
	西尾	福地北部小	中村亜衣子
	西尾	一色中部小	山﨑　美里
	西尾	一色南部小	大平　陽美
	西尾	横須賀小	鈴木　万絢
	知立	知立東小	金原　正季
	豊川	八南小	黒田　麻由
	豊川	八南小	浜田　若奈
	豊川	国府小	原田　拓弥
	新城	千郷小	紙谷　梨沙
	田原	田原東部小	髙瀬　隼人
数学	岡崎	甲山中	前原　章由
	岡崎	矢作北中	菅原　　司
	岡崎	矢作北中	大原　洋平
	豊田	豊南中	小林　祐哉
	安城	安城南中	馬場　涼平
	安城	桜井中	神谷　　誠
	安城	東山中	内藤　誉貴
	西尾	東部中	松原　　快
	幸田	幸田中	牧野　　築
	幸田	南部中	堀田　琢司

研究領域	郡　市	学校名	氏　　名
特別支援教育	西尾	三和小	小野　志織
	高浜	高浜小	池野　奈月
	高浜	港小	近藤　　瞬
	豊田	豊南中	岡本帆乃香
	みよし	南中	柴田美佐里
総合的な学習	豊田	根川小	中野　絢平
	豊田	元城小	三浦健太郎
	西尾	一色中部小	立入　昇平
	田原	伊良湖岬小	藤江　優子
	豊田	豊南中	廣村　紋菜
	安城	桜井中	手嶋里栄子

研究領域	郡　市	学校名	氏　　名
情報教育	岡崎	男川小	大屋　徳明
	岡崎	生平小	石谷　遼一
	岡崎	小豆坂小	鈴木　由理
	豊田	東山小	大坪　隼人
	豊田	梅坪小	小木曽弘尚
	岡崎	矢作北中	鈴木　優太
特別活動	幸田	幸田小	渡辺　　直
	みよし	南中	松本　賢治
その他	豊田	高嶺小	永田　淑湖
	豊田	滝脇小	城殿　祐輔
	幸田	荻谷小	加藤　夏希

● 1年次申請の選考を終えて ●

審査委員会副委員長

本年度の個人研究助成の１年次申請は、240名の応募があり、その中から200名を助成対象者として選考しました。新型コロナウイルス感染症による様々な制限がある中でも、自らの力量を高め、子供たちの学びを保障していこうとする先生方の熱意を感じます。

新学習指導要領が、小学校では昨年度から、中学校では本年度から本格実施となったことを受け、「主体的・対話的で深い学び」を意識した取り組みがなされようとしています。また、ＩＣＴを活用した実践が加速度的に進む状況の中で、有効活用に向けた取り組みも模索されています。研究実践が進められ、子供たちの学び方改革が具体的に進んでいくことが期待されます。

選考審査において、気づいたことを以下に記します。今後の実践研究の推進や２年次申請の参考にしてください。

・多くの実践で「主体的・対話的で深い学び」を目指す姿勢がみられます。各教科で育てたい力をもとに、具体的な姿のイメージを描いて実践を計画することが大切です。
・３年間という期間を考えるとある程度テーマを大きく設定することになります。３年間を見通し、構想したうえで、１年次に何を目指すかを具体化することが必要です。
・教材や手立てを工夫し独創性のある実践には、その成果を期待させられます。学習指導要領にもとづいた教科としての学びを明確にしておくことが大切です。
・学び方改革が進む中で、タブレット端末等のＩＣＴ機器活用に積極的に取り組む姿勢は大切です。活用することが目的ではなく、活用が教科の学びにどう有効であるのかを示す必要があります。

〈２年次〉(50名)

研究領域	郡　市	学校名	氏　　名	研　　究　　主　　題
国語	岡崎	根石小	福永えりな	言葉や表現から、豊かな発想で自ら物語を楽しく読み深めることができる子の育成
	安城	桜町小	太田　洋祐	物語を読む面白さを感じ取り、他者を喜ばせるために学習で身についた力を発揮したいと考えることのできる児童の育成
	安城	新田小	白谷　麻未	根拠をもとに考え、物語を楽しむ児童の育成
	西尾	中畑小	根本　円佳	叙述をもとに、登場人物の心情を豊かに想像して読む児童の育成
	蒲郡	西浦小	山田　りか	自分の思いや考えをわかりやすく伝え合う子の育成
	蒲郡	竹島小	金子　加歩	自ら学び、共に高め合う子どもの育成
	西尾	吉良中	長谷　守紘	言葉による見方・考え方を学習や生活で自在に働かせる生徒の育成
社会	みよし	三吉小	森田幸一郎	問題解決的な単元構想を取り入れ、地域素材を活用した社会科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり
	蒲郡	形原北小	近藤　祐輔	主体的に学び、かかわる子
	蒲郡	中部中	山本　佳範	社会的事象に関心をもち、課題に対して主体的に追究し、学び合う生徒の育成
	田原	田原中	竹内　啓祐	社会の身近な問題に興味をもち、仲間と学び合う中で自分の考えを深めることができる生徒の育成
算数	刈谷	衣浦小	吉村　　睦	ともに学び合う授業の創造
	刈谷	富士松北小	大浦　祐司	主体的に問題解決に取り組み、関わり合いを通して、自分の考えを深める子の育成
	安城	丈山小	田中友紀子	互いの考えを聴き合うよさに気付き、「分からない」を「分かった」と実感できる子の育成
	蒲郡	蒲郡南部小	山﨑　雄介	自ら追究し、学びを生活に活かせる子の育成
数学	岡崎	葵中	岩野　慎也	数学的活動を通して、主体的に自分の思いや考えを表現できる生徒の育成を目指して
	刈谷	雁が音中	菊地　惇也	自分の判断基準となる根拠を、数学を使って具体的に伝えることのできる生徒の育成

研究領域	郡　市	学校名	氏　　名
数学	蒲郡	塩津中	大木　脩平
	蒲郡	中部中	鈴木　巧人
理科	岡崎	生平小	水谷　真夢
	岡崎	岩津小	小川　昇汰
	岡崎	六ツ美南部小	近藤　智也
	豊田	駒場小	大内　香穂
	幸田	坂崎小	神谷香奈絵
	幸田	幸田小	新谷　拓也
	豊橋	栄小	小澤　舞緒
	豊橋	天伯小	間瀬　敬太
	蒲郡	蒲郡南部小	安田　晃治
	新城	新城小	鈴木　麻穂
	新城	千郷小	鈴木美沙子
	新城	東郷西小	神谷　健輔
	北設楽	田口小	大橋　弘登
	岡崎	福岡中	東浦　　廉
	岡崎	矢作北中	仲川　真由
	岡崎	新香山中	岩瀬　美瑚
	碧南	新川中	上辻　　将
	刈谷	依佐美中	山本　武志
	西尾	寺津中	野々村宗一郎
	西尾	吉良中	重光　雄太
	幸田	幸田中	渋谷悠里菜
	蒲郡	中部中	鈴木　彩日
	北設楽	東栄中	鈴木　悠里
音楽	岡崎	男川小	近藤　優花
	安城	桜井小	川越　貴世
	岡崎	南中	坂井　滉平
	岡崎	新香山中	服部　晃峰
	豊田	朝日丘中	福田　真美
	豊田	猿投中	田辺めぐみ
	西尾	鶴城中	岩月　仁美
図画工作	碧南	大浜小	平岩　理紗
	碧南	大浜小	市川　絵美
	豊田	梅坪小	鈴木　美穂
美術	西尾	寺津中	大森勇之介
	蒲郡	蒲郡中	大塚　扶美
家庭	岡崎	梅園小	本郷　水紀
技術・家庭	豊田	豊南中	櫻井　笙乃
	安城	安城南中	三宅　響月
	西尾	一色中	青木　真衣
体育	岡崎	根石小	山本慎太郎
	碧南	大浜小	岡田　圭祐
	刈谷	朝日小	牧野　晃大
	安城	二本木小	角谷　僚亮
	安城	二本木小	田中　香織
	田原	神戸小	服部　登夢
保健体育	岡崎	甲山中	浅岡　哲平

研究領域	郡　市	学校名	氏　　名
保健体育	岡崎	竜南中	片岡　沙織
	安城	篠目中	中野　弘幸
	西尾	鶴城中	青木　康浩
	西尾	寺津中	林　　颯太
	高浜	高浜中	蓑田　隆幸
	幸田	幸田中	高須　優典
	北設楽	東栄中	潟邉　武大
外国語活動	豊田	根川小	横見　智之
	安城	安城西部小	髙木　健汰
	安城	今池小	杉浦　稚子
	西尾	三和小	田中　彩花
外国語	岡崎	葵中	平石　汐里
	豊田	若園中	佐伯　祐太
	豊田	前林中	小栁津和久
	豊田	藤岡南中	伊藤　哲生
	安城	桜井中	髙野　文香
	西尾	鶴城中	山本夕莉佳
	西尾	東部中	大河原啓豪
	西尾	吉良中	水谷みゆき
	高浜	高浜中	山田　翔子
	みよし	北中	近藤　　将
	幸田	幸田中	杉浦　龍太
	幸田	幸田中	福田みのり
	豊川	音羽中	板倉　雅幸
生活	岡崎	梅園小	石田瑶理子
	岡崎	連尺小	木里　悠乃
	岡崎	生平小	杉本　智恵
	豊田	中山小	三宅　明梨
	西尾	三和小	岡室　実佳
	西尾	横須賀小	安藤　優里
	高浜	吉浜小	中川　恭佑
	高浜	港小	深谷　和彦
	蒲郡	蒲郡東部小	小田　恭子
	田原	若戸小	本田　　愛
道徳	安城	安城北部小	武田　匠平
	高浜	翼小	吉原　智草
	豊川	天王小	菊池　景子
	新城	黄柳川小	熊谷　　隆
	刈谷	雁が音中	渡部真智子
	豊田	若園中	大野　遥風
	豊田	若園中	平林　絵梨
	みよし	南中	山田　康之
学校保健	豊田	加納小	宮塚　麻有
	安城	里町小	仙田　絢美
	安城	梨の里小	小久保愛乃
	みよし	三吉小	松本　真美
	新城	新城小	夏目　　香
特別支援教育	安城	丈山小	角谷友里絵

〈3年次〉(10名)

研究領域	郡　市	学校名	氏　　名	研　　究　　主　　題
国語	知立	知立小	来川　知裕	豊かな想像力をもち、思いの伝わる表現を探求する子の育成
	岡崎	額田中	三井　靖子	言葉や表現にこだわり、読みを深める生徒の育成
数学	蒲郡	蒲郡中	保浦　哲晴	対話を通して学びを深める生徒を育てる数学学習
音楽	安城	桜林小	伊吹　拓実	生活の中にある音や音楽に耳を傾け、仲間と関わりながら音楽表現を楽しむ子の育成
体育	岡崎	竜美丘小	加藤　雅也	自己や他者の思いを大切にして授業を構築し、主体的に運動に取り組むことができる児童の育成
	田原	泉小	石川　雄一	互いの立場を尊重し、運動にのめり込む体育学習
保健体育	岡崎	竜南中	松本　良太	保健体育科の見方・考え方を働かせた深い学びの構築
外国語	刈谷	刈谷東中	神谷　健人	英語で表現することに自信をもち、英語で伝えることの楽しさを実感できる生徒の育成
	豊田	益富中	水谷　陽子	自分の経験や考えを英語で表現することができる生徒の育成
その他（へき地・小規模校）	豊田	足助小	清水　洸希	未来に向けてチャレンジ!!小規模校の特性を生かした活動を通して、自ら考え、ふるさとの自然や歴史・伝統を守り育てていこうとする子どもの育成

Research result report

研究成果論文提出者の紹介 (平成30～令和２年度の研究)

平成30年度を研究１年次として、令和２年度までの３年間、着実に研究を推進され、成果を見事に論文として提出された10名の先生方を紹介します。

国　語

安城・桜林小　**石川　美佳**

友達と考えを聴き合い、自分の考えを深めようとする子をめざして

体　育

田原・伊良湖岬小　**糟谷　賢太**

運動有能感を高め、主体的に深い学びへ向かう体育学習

社　会

西尾・鶴城小　**真鍋　智嗣**

学びの実社会への有用性を考える生徒の育成

道　徳

豊田・青木小　**川合　恭子**

自己を見つめ、他者と関わり、よりよい生き方を考える子の育成

算　数

刈谷・東刈谷小　**神谷　貴公**

児童一人一人が理解の深まりを実感できる算数の学習

道　徳

豊川・御津南部小　**白岩　和樹**

物事を広い視野で考え、主体的な判断の下に行動し、よりよい生き方を追求できる子の育成

理　科

豊田・五ケ丘東小　**永田　翔一**

問題意識を持続しながら主体的に活動し、考えを深め合える子どもの育成

学校保健

豊田・松平中　**清水　暖生**

自分の生活を見直し、健康な生活を送ることができる児童生徒の育成

理　科

幸田・北部中　**犬塚　創太**

身近な素材をもとに「主体的・対話的で深い学び」を実現できる子の育成

その他

岡崎・福岡中　**成瀬　拓磨**

不登校児童生徒の自立を目指した支援の在り方と「あくまでも」学校復帰に向けた取組の有効的手段の探究

研究領域	郡　市	学校名	氏　　名	研　　究　　主　　題
数学	蒲郡	中部中	原田　樹一	主体的に追究し、仲間と学び合う生徒の育成
理科	岡崎	広幡小	山北　早彩	自らの意思で判断・決定できるスーパーソサエティキッズの育成
	岡崎	小豆坂小	永田　祥晃	主体的に学び、対話を通して、事象の理解を深めていく児童の育成
	豊田	藤岡南中	立石　智也	科学的にとらえた現象をもとに、主体的に学びを生かして新たな不思議を解決することのできる生徒の育成
	西尾	鶴城中	古澤　知幸	自然から課題を見出し、かかわりを通して考えを深められる生徒の育成
	新城	千郷中	酒向　和希	自らの考えを大切にし、学び続ける生徒を育む理科学習
音楽	安城	三河安城小	森元　創世	曲の感じ方の違いや変化に気付き、友達と協力しながら創作する児童
美術	豊田	猿投中	岡本真由美	私の気持ちをペーパーフラワーに込めて、学校の来客用玄関を演出しよう
	北設楽	東栄中	湯浅　絢貴	地域のよさを美術作品を通して伝えようとする生徒の育成
技術・家庭	刈谷	雁が音中	山本　昂平	生活の中にある疑問や問題に目を向け、身に付けた知識や技能で生活を豊かにすることができる生徒の育成
	豊田	竜神中	清水　悠生	技術を継承し、持続可能な社会を目指す生徒の育成
体育	岡崎	美合小	落合　湧也	自ら課題を形成し、仲間と共に解決できる児童を育てる体育学習
	西尾	中畑小	遠藤　廣	生涯にわたって運動に親しむ子の育成
保健体育	碧南	新川中	小栗　和也	自分と向き合い、必要な運動を考え主体的に行うことができる生徒の育成
外国語活動・外国語	岡崎	上地小	天野　圭祐	主体的に追究する児童の育成
	みよし	天王小	関川　麻美	オールイングリッシュを楽しみ、意欲的に自己表現できる子どもの育成Ⅱ
外国語	北設楽	東栄中	本村　　健	これからの社会やなりたい自分の姿を想像して、将来について自分の考えを深め、英語で伝えることができる生徒の育成
生活	岡崎	羽根小	三浦　理沙	地域に対する想いをもち、愛着を深める子供の育成
	豊川	国府小	内藤亜梨紗	思いや願いをもち、自ら考え、いきいきと活動する子供の育成を目指して
	蒲郡	竹島小	近田　卓也	自ら学び、共に高め合う子どもの育成
道徳	岡崎	竜美丘小	布施　将太	授業で思考を深め、生活の中で実践しようとする児童の育成
	新城	黄柳川小	瀬戸菜々子	より深めた考え、新たな考えに気づく子どもの育成
	豊川	音羽中	平井百合絵	生徒が問題意識をもち、身近な経験と結びつけて考えることができる生徒の育成
学校保健	蒲郡	西浦小	市川　佳奈	自分の心と体の様子に気づき、行動選択できる子の育成
特別支援教育	岡崎	美合小	酒井久美子	日常生活と学習との結び付きを実感できる生活単元学習
	岡崎	大門小	近藤　朋美	子供たちにつけたい力を具体化し、学校教育全体で取り組む自立活動の指導
	岡崎	六ツ美西部小	井上　清美	主体的に学ぶ中で、国語の知識・技能を伸ばし、学びを生活に生かす子の育成
	豊川	千両小	西尾　友恵	友達とのかかわりの中で、気づき、理解を深める子の育成
総合的な学習	豊田	中山小	津田　龍一	身近な生活の中から課題を見付け、主体的・協働的に解決することのできる児童の育成
	豊田	則定小	加藤　大智	郷土学習を通して、主体的に郷土のよさを発信し、郷土に誇りをもつ子どもの育成
	西尾	一色中部小	鈴木　菜月	共助の心をもち、今できることを考え実行する子を育てる防災学習
特別活動	豊橋	吉田方小	山本　崇代	仲間とともに学ぶ子どもの育成
	豊橋	南部中	前原　　静	主体的に学びに向かい、学び合う生徒の育成

● 2年次・3年次申請の選考を終えて ●

審査委員会副委員長

220名の１年次助成対象者の中から50名を２年次助成対象者として選考しました。また、３年次の助成対象者は10名でした。これまでの研究実践をもとにした継続研究は、確かな成果を見通すことができ、今後に期待が膨らみます。新型コロナウイルス感染症により、グループ学習等の活動が制限される状況での実践となりました。しかし、工夫をして子供たちの学習活動を充実させようとする先生方の熱意を多くの実践から感じることができました。

また、小学校では新学習指導要領の本格実施を受け、子供にとっての必然性や思考の流れを大切にした実践を進めていこうとしていることが伝わってきました。中学校においても、本格実施を見越して同様の動きがありました。ＩＣＴの活用も進んでおり、教科の特性を生かした活用を工夫し学習活動の幅を広げたり、一人一人の学習の深化を図ったりする実践も見られました。

選考審査において、気づいたことを以下に記します。今後の実践研究の推進や３年次申請の参考にしてください。

・手立てを工夫した興味深い実践がいくつもありました。検証に当たっては、抽出児童・生徒を設定して手立てによる変容をもとに成果を示すなど、具体性が必要です。
・ＩＣＴ機器の活用が積極的に進められ、その効果がわかるものがいくつもあります。教科の学びをより深めるための活用であることを確認し、実践の中に位置づけることが大切です。
・学年や校種の変更により難しい部分もありますが、可能な限り３年間を見通した研究構想を意識し、実践研究を進めたいものです。

コンクール関係

みかわ彩発見絵画コンクール（秋・冬の部）

応募期間　令和３年12月20日㈪～令和４年１月12日㈬

かきぞめコンクール

応募期間　令和４年１月４日㈫～１月７日㈮

作品展（絵画・かきぞめ同時開催）

展示場所　三河教育会館

展示日時　令和４年２月４日㈮・２月５日㈯
午前９時30分～午後３時30分
優秀作品表彰式／令和４年２月６日㈰

使用報告・刊行物注文締切

◇使用報告／冬休み日誌、かきぞめ手本、硬筆用紙、賞状
令和３年12月７日㈫～９日㈭

◇令和４年度版刊行物第Ⅰ期当初注文／
令和４年１月６日㈭～13日㈭

□刊行物モニター研究調査報告締切／
令和３年11月26日㈮

□教育図書出版助成申請締切／
令和３年12月６日㈪

□郡市教育・研究、学校教育ボランティア助成等実施報告締切／令和４年２月28日㈪

令和4年度版　文振刊行物デジタル化の進捗状況　令和3年10月現在

教師用PDF版の提供

小学校　ことばのきまり　算数の学習　英語の学習　せいかつかノート　ふえのひびき　算数の友　みんなの安全　いのち

中学校　社会演習　数学演習　数学の友　中学生の学級活動　中学生の安全

QRコードの掲載

小学校　ことばのきまり　作文の友　英語の学習　社会の友　せいかつかノート　ふえのひびき　算数の友　修学旅行のしおり　みんなの安全　ひらがな・かたかな　親と子の自然観察ガイド　夏・冬休み日誌㈫・特）　かきぞめ手本

中学校　ことばのきまり　理科演習　英語演習　つくる生活技術　保健体育ノート　かきぞめ手本　高校入試問題集

ひらがな・かたかな編集委員会動画撮影

今後、各刊行物をさらに充実させるために、デジタル化を順次拡大していく予定です。デジタル化へのご意見・ご要望をお寄せください。

令和３年度　業務組織（令和3年9月1日～）

顧　問	岩月　慎自	
理事長	柵木　智幸	
副理事長	岡田　守	
常務理事	伊藤　雅朗	
	天野　広子	
事務長（兼総務部長）	酒井　敬	
事務次長（兼業務部長）	白井　博司	
総務部	山本　満夫	
編集部	水藤　彰啓	稲垣　良治
ＩＣＴ部	水鳥　勝久	名倉　嘉章
業務部	天野　明典	本多麻紀子
	深津　理絵	
経理部	谷中　智典	浅井　英雄
	牧　富代	
事務員	鈴木　千明	

人事異動のお知らせ

9月の本振興会理事会において、顧問の交代が決議されました。

退任　青木　宏氏
就任　岩月　慎自

文振の最新情報は、ホームページをご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

教育と文化　令和3年11月1日号　No.127
発行／公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868　岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
TEL 0564 - 51 - 4819
https://www.bunsin.org

※QRコードは㈱デンソーウェーブの登録商標です。